

## 「クジレット商法」

### 1. はじめに

本体を安く売り、その後独自仕様の消耗品や追加購入品で儲ける商法は消耗品ビジネスと呼ばれ、アメリカのG i l l e t t e社の専用替刃式男性用髭剃りカミソリが発祥（1903年）だそうで、「ジレット商法」とも呼ばれている。すなわち、低いイニシャルコストで消費者を誘い込み、購入後の高いランニングコストで儲けようという訳だ。

ジレット商法の範疇に入るものには他に、インクジェットプリンター（消耗品：インクカートリッジ）、レーザープリンター（消耗品：トナー、ドラム）、コピー機（消耗品：トナー、ドラム；月額料金：リース代）、謄写版型高速印刷機（消耗品：原紙、インキ）、ワープロ専用機（消耗品：インクリボン、印字ボール）、コダックカメラ（消耗品：専用フィルム）、ゲーム専用機（消耗品：ゲームディスク）、携帯電話（消耗品：通話料、オプション料）、飲料サーバー（消耗品：ミネラル水やコーヒー、紙コップなど）、電気髭そり機（消耗品：替刃、クリーニング用カートリッジ）、スチールカメラ（追加購入品：交換レンズ、高性能フラッシュ、リムーバブルメモリ）、などがある。

今回の残光記では、ジレット商法の理不尽さをインクジェットプリンターとカートリッジ替刃式男性用髭剃りカミソリについて記したい。

### 2. プリンター

パソコンのインクジェットプリンターの普及型機種の場合は日本製で2～3万円くらいであり、高い性能・機能からみると比較的安く手に入るが、以後購入し続けることになる消耗品＝独自仕様のインクカートリッジ（5～6色セット）が5千円



色の選択肢を見る

BCI-351XL+350XL/6MP 【6色セットマルチパック】  
Canon キヤノン 互換インクカートリッジ 残量表示対応 | Villay  
¥ 1,380 ✓prime

非純正品 (Villay 製)



【純正品】 キヤノン  
(Canon) インクカートリッジ 5色マルチパック 型番：  
BCI-351+350/5MP 単位：1箱 (5色) ds-1100618  
Canon (キヤノン)  
¥ 5,980

純正品 (Canon 製)

(Amazonのサイトから引用)

前後もする。私のような隠居の身でもインクカートリッジは年間3セット（1万5千円）くらい買う勘定なので、その累積費用はおよそ2年で本体価格を越えるのだ。キヤノンなどのプリンターメーカーは「本来なら5～10万円くらいはする本体を安価に販売する損失を補うためインクカートリッジの値段を少々高めにしてている。」と苦しい言い訳をしている。インクカートリッジは本体の数年毎の大幅モデルチェンジと連動して形態が変わるので、本体を買い換えると古いものは使えなくなるのだ。

インクの値段などというものはインクカートリッジ1本200円くらいが精々だと思うが、純正品のインクカートリッジは1本千円くらいはする。これに目をつけた他の中小企業が非純正インクカートリッジや詰め替え用インク（再生インク）を半値以下で売っている。使用済のキヤノンインクカートリッジを回収し、これにインクを充填した再生品を安価に発売したメーカーをキヤノンは特許侵害で訴えて勝訴したそうだが、独占禁止法や消費者ファーストの観点からすると際どい悪徳商法と言えらるう。

また、キヤノンインクカートリッジ又はプリンター本体にはインク残量検出ICチップが組み込まれているようで、インクが空になると本体モニターに「インクを交換して下さい」のメッセージが出るのだが、これには「空刷り防止のため」という表向きの理由がある。しかし、一方では非純正インクカートリッジの使用を防止する意味もあるらしい。すなわち、非純正インクカートリッジを使っている間は印刷はできるものの「インクを交換して下さい」のメッセージとランプの点滅が出続けることになる。そしてネット情報によれば、非純正インクカートリッジを使い続けると遂には「インクがなくなりました」が出たまま、或いは「修理が必要な故障が発生しました」のエラーメッセージが出てプリンターが動かなくなることがあるらしい。誠に理不尽な話だ。この故障表示はネット上でも「よく起る爆弾メッセージ」として多数指摘・非難されている。確かにプリンターの心臓とも言えるプリンターヘッド（インキが紙に噴射する部分）は高精度部品であって、非純正のインクやカートリッジの使用で詰まったり、インク漏れで故障が起こる可能性は高いかも知れない。この点については医薬品の安価なジェネリック薬品と同様に消費者ファーストの観点に立って通産省などの行政が品質検査の厳正化を規制～命令すべきだと思う。以前のキヤノンのマニュアルか何かで「非純正インクを使って起った故障修理は受け付けません。」という文言が書いてあったのだが、流石に最近では自粛しているようだ。

私は3年前に買ったキヤノンプリンターに非純正品のインクカートリッジを使い続けていたところ、最近インク漏れ・ノズルの詰まりが起ったのか突然「要修理」のメッセージが出て動かなくなった。家電量販店経由で修理に出すと恐らく修理代は安く見積もっても1万円は下らないと思うので廃棄することにし、Yahooオークションで中古の同型プリンターを送料込み8,400円で手に入れた。最近ではキヤノン純正の2倍増量インクカートリッジが7千円（3割安価）で出ているので、これで少なくとも後3年くらいは非純正品を避けて使おうかと思っている。しかし、高価な純正品を買うのも忌々しい気分ではある。

インクジェットプリンターにはインク残量表示の機能があるが、一般にかなり早めに残量ゼロの警告表示が出る傾向があるとのことだ。アメリカの美術業者「Bellevue Fine Art Repro」の男性が「残量1%と表示された業務用エプソンカラープリンター「Stylus Pro 7900」のインクカートリッジにはどのくらいの量のインクが残っているのか？」という実験動画を公開し話題になっている。それによると平均

20%程度のインキが残っていることが分かり、ネットは炎上、当の男性は詐欺だと告発している (<http://netgeek.biz/archives/50220> 参照)。

レーザープリンター、コピー機の本体でも最近是比较的値段が下がった代わりに、独自仕様のトナー（消耗品）が比較的高価であり、購入後の経費が馬鹿にならない。

キャノンという企業はこれまで日本の誇りであったが、プリンター、コピー機、カメラの主要商品すべてで品格を落とす厚顔なジレット商法を続けているのは嘆かわしく、私自身の中でも評価が急落している。

### 3. カートリッジ替刃式男性用髭剃りカミソリ



¥1,924

(Amazonのサイトから引用)

私は髭そりにカートリッジ替刃式の Schick Injector II を 20 年以上前から使っている。このようなタイプは、通常本体と替刃（10 回分前後）がセットとなって 2 千円前後で売られている。刃は 3 回くらい使うと切れにくくなる軟弱もので、1 週間に 1 回くらいの割でカートリッジを差し込んで刃を交換せざるを得ないのだが、こんなことまで計画的に仕組んでいるのだとすれば Schick は消費者の敵だ。従って、凡そ 2 か月で新しいカートリッジ（刃 10 枚入り）を買うのだが、値段はアマゾンで見ると 1,500～2,000 円ほどするから、まさに性質（たち）の悪いジレット商法である。

昭和 30～40 年頃、私の父親はフェザーの両刃の替刃の髭そりを使っていたが、替刃は 30 枚くらい入った箱が 150 円くらいと安かった。ただし、今のものに比べて扱いが難しく、皮膚を切って血を流すことがしばしばであったと記憶しているから、総合的に見れば皮膚に当たる角度が可変式の今の替刃式髭剃りカミソリは優秀だ。

最近、息子が長く使わずに家に置いていたジレットのカートリッジ替刃式のものを使っているが、中々切れ味がよい上に刃 1 枚当たり 7～8 回は使えるから、使用回数当たりの単価はジレットに軍配が上がる。髭そりのように日常生活に欠かせない消耗品は使い心地のよさに加えて、少々高価でも長持ちするものが良いに決まっている。

### 4. 終わりに

ジレット商法は 100 年ほど前から始まり、最近広範に広まったものだが、公的規格が適用し難いところに目をつけた巧みな、感心させられる商法である。近年、ジレット商法が巧みに組み込まれた IT 機器が生活に広く浸透している状況にあって、個人の IT 関係経費は PC とその周辺機器、携帯・スマホ・パッドなどのポータブル端末、ネット接続、消耗品などを合計すると平均月額 2～3 万円前後に達しているだろうか。政府（通商産業省）はプリンターやコピー機などの独占禁止法スレスレのジレット商法にメスを入れ、消費者を守る施策を進めて欲しいものだ。

その一方でセイコー・エプソンは最近、消耗品ビジネスからの脱却を目指す動きを見せている。すなわち、普及しやすい価格で大容量インクタンク式インクジェツ

トプリンター本体および適性価格（安価）の正規品インクタンクを販売するという異変が起きており、大いに期待されている。

また、Color Creation というこの分野では比較的老舗の会社（別称：インク革命.COM）が品質良好という評判の非純正インクカートリッジを4割安程度で売っている。この非純正インクカートリッジにはインク残量検出用のICチップが取り付けられていて、機能としては純正品とほぼ同じで、ネットでの評判もすこぶる良いようだ。そして注目すべきは最近この会社が、同社のインクカートリッジを使用するプリンター本体（キヤノンやエプソンの製品）を1年間保証するという驚きの新しいビジネスモデルを始めたそうだが、これは純正品には負けないという自信の現れであろう。誠に朗報であり快哉である。

### <参考文献>

- 1) Yahoo 検索語：ジレット商法、消耗品ビジネス、キヤノン、インクジェットプリンター、インクカートリッジ、カートリッジ替刃式男性用髭剃りカミソリ、詰め替え用インク、再生インク、Gillette、エプソン、故障、プリンターヘッドの目詰まり、脱消耗品ビジネス、Color Creation、インク革命.COM。
- 2) 消耗品ビジネス、ジレット商法：<http://dandyrandy.net/?p=1099>  
<http://roy.hatenablog.com/entry/20110716/p1>  
<http://netgeek.biz/archives/50220>  
<https://www.trendswatcher.net/2015/11/02/%E3%83%96%E3%83%A9%E3%83%83%E3%82%AF%E3%81%AA%E5%95%86%E6%B3%95%E3%81%AF%E3%82%84%E3%82%81%E3%82%88%E3%81%86/>  
<http://shadowtimes.hatenablog.com/entry/2015/09/25/201142>  
<https://blog.goo.ne.jp/unizho4580/e/30ae8f7684b9bf6115a074f3d3f43cea>  
<https://www.anatomy-modern-business.com/business-model/gillette/>  
<https://s-ishihara.com/2018/06/10/post-96/>  
<http://www.dhbr.net/articles/-/2461>
- 3) 脱消耗品ビジネスの動き：  
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ022504710Q7A021C1000000/>
- 4) Color Creation 社のインクカートリッジ：  
<http://ink-revolution.com/index.php/PIXUS-MG6530.html>  
<http://yeswego.biz/consult/post-297/>